

開講時期 後期	曜日 金曜日	時限 2時限
------------	-----------	-----------

科目コード 126007a 配当学年 3・4

科目名 芸術情報論

教員名 大森 淳史

【授業の目的】

ICT時代の現在、インターネットの中を膨大な量の芸術情報が流れている。新しい芸術表現は、動画などによるインターネットでの配信を前提に制作されているものも多い。そうしたICT時代の芸術情報の現状とその課題を理解しておくことは、芸術に関して学ぶ上で必須の条件である。芸術情報の現状とその課題について知る。

【到達目標】

- ① インターネットを流れるさまざまなアート関係ウェブサイトについての知識を持ち、目的に応じて自由にアクセスし、情報検索ができる。
- ② それらの情報に関する一定程度の美術史やデザイン史等の知識を有する。
- ③ アート関係情報を整理、編集し、自ら情報発信する意欲と初歩的知識を有する。
- ④
- ⑤

【授業概要】

今日、画像や動画を含む膨大な芸術情報がインターネットのなかを流れている。官民双方からそれらの情報を統合する試みも行われてきている。その現状とそこに存在する問題について考える。デジタル技術とインターネットの進歩は、権利問題にも重大な事態を生じさせている。ホットな著作権問題と自由な文化のあり方についても考察する。

【授業の進め方・授業手法】

コンピュータ教室で各自端末の画面を確認しながら行われる。インターネットサイトを多数参照するが、その際、教員制作のリンクサイト(インターネット非公開)を使う。2～3回に一度課題を課す。課題はWebClass提出のレポートのほかに、ペーパー記入のものもある。

【準備学習】

配布資料の確認と教員作成のリンクページを利用して、授業で参照したアート関係サイトの中身を検証する。課題を仕上げる。(毎回1時間、課題提出の場合は3時間)

【授業計画】

- 第1回. オリジナルとコピー: インターネット時代のアート情報
- 第2回. アート系ウェブサイトの分類および関連する基礎用語の解説
- 第3回. 美術館・博物館のホームページに公開されるデジタルアーカイブ(東京国立博物館他 国公立美術館)(課題)
- 第4回. 美術館・博物館のホームページに公開されるデジタルアーカイブ(和泉市久保惣記念美術館他私立美術館)
- 第5回. 美術館・博物館のホームページに公開されるデジタルアーカイブ(ルーヴル美術館他 海外の有名美術館)
- 第6回. 美術館所蔵作品データベース統合の試み(ジョコンドデータベース、文化遺産オンライン他)
- 第7回. 巨大IT企業と世界中の美術館とのコラボ: グーグル・アーツ・アンド・カルチャー(課題)
- 第8回. インターネット上の画像データベースとしての「ヴァーチャル・ミュージアム」: web gallery of art, Artcyclopedia他)
- 第9回. アート総合情報サイト(課題)
- 第10回. 特定のアーティストに関するサイト(課題)
- 第11回. メディアアート系サイト
- 第12回. 著作権について
- 第13回. 仮想の展覧会の企画(企画構想、テキスト作成、画像取得、画像処理)(課題)
- 第14回. 仮想の展覧会の企画(エクセルによる画像データベース作成)
- 第15回. 到達度の確認とまとめ

【フィードバックの方法】

課題は、レポートについては簡単なコメントをつけて返す。ペーパーで提出のものについては、授業中に解答をつけて返却する。「到達度の確認」の解答はWebClassで行う。

【テキスト】

使用せず、毎回教員作成のテキストをプリントにて配布する。
(テキスト ISBN)

【参考文献】

【オフィスアワー】

研究室前に掲示しているオフィスアワーの時間を確認のこと。
WebClassでは随時質問、要望を受け付ける。

【担当教員からのメッセージ】

【履修上の注意】

【実務経験のある教員による授業内容】

【ディプロマ・ポリシーとの関係】

- 《関心・意欲・態度》
2. 目標実現に向けて、自分自身を冷静・客観的に理解する力を持っていること。(自己理解力)
 7. 日本と世界の文化、歴史への関心を持ち、それらを学ぶことへの意欲があること。
- 《思考・判断・表現》
3. 社会の問題に対して、PDCAサイクルで行動できる力を持っていること(問題解決力)
- 《技能(表現)》
3. 情報機器などに対する操作スキルを有し、諸問題にICTを活用できる力を持っていること。(情報リテラシー)
- 《知識・理解》
4. 日本の文化、歴史について深い知識と理解を有していること。
 5. 文学作品や芸術作品を読み解き、深く理解できること。
 7. 現代の文化への広い知識を持ち、それらを柔軟に理解できること。

評価方法	評価割合(%)	到達目標との対応
到達度の確認	50	①②③
平常点(課題)	50	①②③